

重症心不全治療の新展開

— 補助人工心臓治療と心臓移植 —

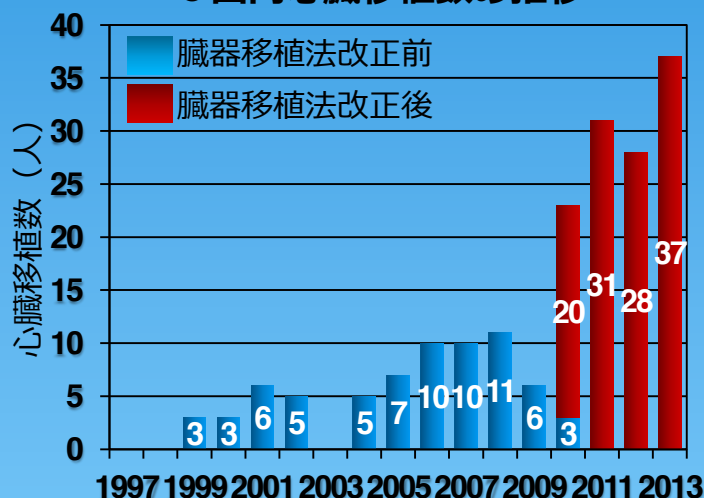
いつも大変お世話になっております。
 当院での心臓移植症例数が60例に達し、国内最多です。
 同時に補助人工心臓治療にも積極的に取り組んでおり、今後も重症心不全治療に力を入れてゆきます。

心臓移植症例数が60例に到達!

1999年、1例目の心臓移植から16年目の今年、当センターでの心臓移植症例数が60例に達しました(2014年3月31日現在)。

移植患者の臨床成績は10年生存率約90%と、国際心肺移植学会の成績と比べても非常に良好な結果を示しています。また約8割の患者が日常生活にほぼ不自由を感じることなく生活されており、約7割の方が復職あるいは主婦として社会や家庭に戻られています。

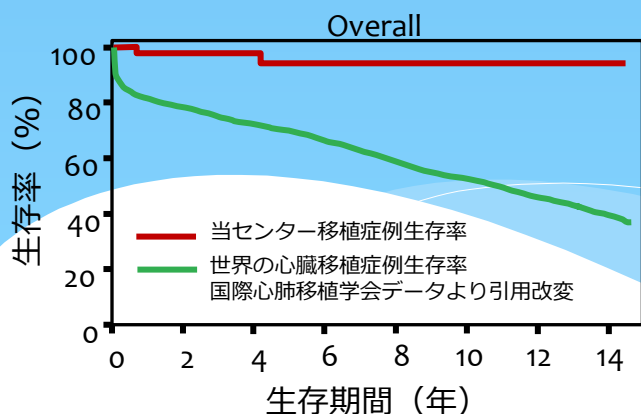
● 国内心臓移植数の推移



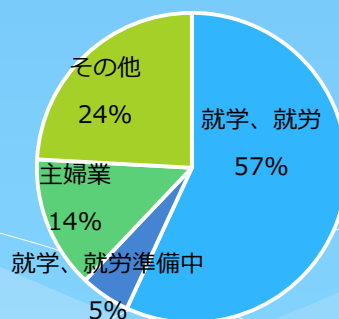
1997 1999 2001 2003 2005 2007 2009 2010 2011 2012 2013

2010年の臓器移植法改正以降、心臓移植症例の増加を認めています

● 当センター心臓移植症例生存率



● 心臓移植症例社会生活状況(58例)

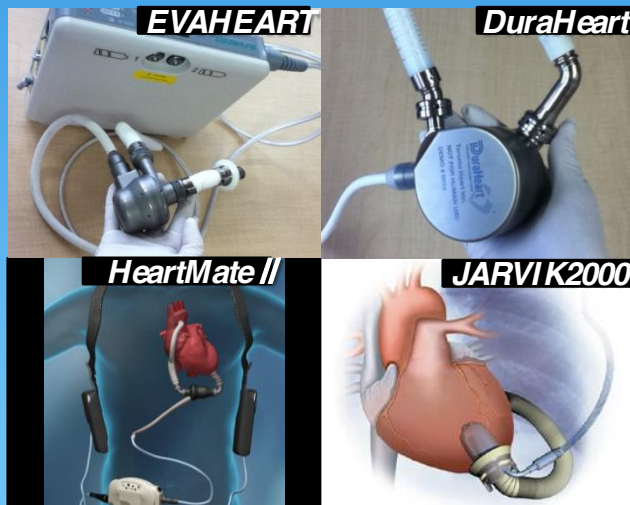


国立循環器病研究センター 移植部・心臓外科
 (重症心不全治療チーム)

補助人工心臓（LVAD）治療は新たな時代へ 2011年より植込型LVADが導入されました

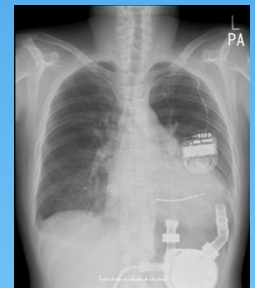
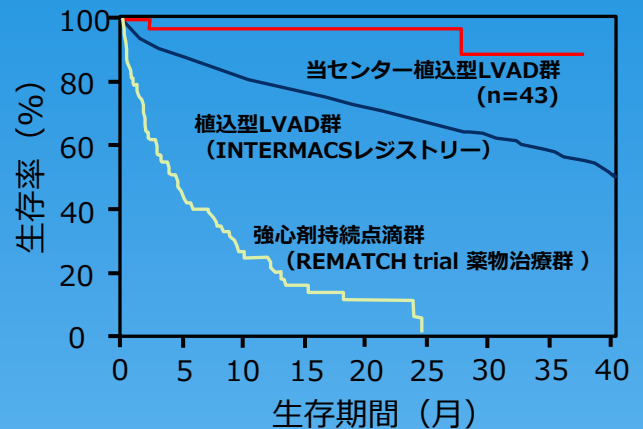
心臓移植までの橋渡し治療として植込型LVADが保険償還され、現在4機種の使用が可能です。

これにより、退院・在宅での移植待機が可能となり、患者様によっては復職し、ほぼ通常と変わらない生活を送りながら心臓移植待機をすることが可能となりました。



現在使用可能な植込型LVAD

当センター植込型LVAD症例生存率
国際レジストリー及び強心剤治療群との比較



左の症例の胸部レントゲン

植込型LVAD装着症例：外来通院時の様子

お気軽にご相談ください

- 65歳未満で、心不全や難治性不整脈により入退院を繰り返す症例
- 強心剤からの離脱困難症例
- 若年心筋症症例：心臓移植、LVAD適応の有無についてのスクリーニング目的での紹介もお受けいたします。

連絡先： 国立循環器病研究センター 移植部（重症心不全治療チーム）

●電話番号：06-6833-5012(代表,平日), 06-6833-5015 (代表、休日)

●FAX番号：06-6872-8160, e-mail: oseguchi@hsp.ncvc.go.jp

***広範囲心筋梗塞や劇症型心筋炎にて急激な血行動態の悪化を認める症例などの緊急症例にも対応いたします。**

当院ホームページ：

国循



検索

国立循環器病研究センター 移植部・心臓外科
(重症心不全治療チーム)